



人を育てる

教育にとっても熱心な町。

氷川町には人を育てるDNAが根付いています。
 地域が一丸となって子どもたちを育てています。
 先進的な教育に、どこよりも早く取り組んでいます。
 『ふるさとの大地に輝く氷川っ子』が、
 やがてふるさとをずっと愛してくれる大人に育つよう
 熱心な取り組みが展開されています。



コミュニティ・スクール

教育は、学校と保護者と地域の三位一体

氷川町では
地域が一丸となって
子どもたちを
育てています。



氷川町
コミュニティ・スクール
連携協議会事務局
上野 けい子さん



氷川町
コミュニティ・スクール
連携協議会 会長
四宮 和明さん



子どもたちの健やかな成長と質の高い学校教育の実現を図るため、地域の力を学校運営に活かす取り組みがコミュニティ・スクールです。氷川町では2010年から町内すべての小中学校が指定校として活動をはじめました。各学校協議会の代表、教務主任、地域教育コーディネーター、行政などで氷川町コミュニティ・スクール連携協議会を構成し、それぞれが連携・協働しながら『ふるさとの大地に輝く氷川っ子』の育成に励んでいます。読み聞かせ、花植え、味噌作りなど、地域の大人たちによるボランティア支援は好評です。「子どもたちは親だけでなく氷川町民みんなの宝、だからみんなで支えています」と、連携協議会の上野さんは言います。地域とともにある学校づくりの成果として、「地域の大人たちからいろいろと学んだ子どもたちが、いずれはふるさとを愛する大人に育ってくれたらうれしいですね」という思いを、協議会の四宮会長は抱いています。

ICT活用授業

時代の最先端をいく教育をいち早く実施



ICTはInformation and Communication Technologyの略で、日本語にすると情報通信技術。氷川町内のすべての小中学校では、熊本県の教育委員会から『未来の学校』創造プロジェクト事業の指定を受け、ICTを活用した教育に取り組んでいます。電子黒板、タブレット、PCなどのICT機器を導入し、支援要員を配置。聞いて覚える暗記再生型から対話型へと授業のスタイルの転換が図られています。ICTを活用した授業を取り入れたことで、子どもたちはより積極的かつ自主的に授業に参加するようになったと、現場の先生たちは声を揃えます。この取り組みは、学習意欲、思考力、判断力等の向上に確実に良い影響を及ぼしており、また、自分の考えをしっかりと表現したり、お互いの考えを共有して比較検討できる力が、氷川町の子どもたちの中で育っています。「ICTは活用次第で、教育の幅がとて広がると思います」と宮原小学校の坂本先生が話してくれました。

ICTは活用次第で
教育の幅が
とて広がると
思います。



宮原小学校 教諭
坂本 稔さん

人材育成 友好町交流

北海道大空町と提携



友好町との交流

氷川町は、北海道の大空町と平成14年に友好町提携を結び、それ以来、活発な交流を続けています。『ふれ愛スタディ事業』は両町の中学生が互いの町を訪れてホームステイ、氷川町とは全く環境が異なる北海道での貴重な体験が出来る機会として人気の事業となっています。



* 大空町

人口7,406人(平成28年12月31日現在)、総面積約344km²(氷川町の約10倍)で、オホーツクの空の玄関『女満別空港』を擁し、網走湖、藻琴山、メルヘンの丘、東藻琴芝桜公園などに代表される四季の自然が豊かな町です。基幹産業は農業で、麦類、じゃがいも、甜菜(砂糖の原料)、豆類、野菜のほか、日本最東端の米など多岐にわたって栽培されています。

八火 図書館



昭和48年に株式会社電通より寄贈され、平成27年に老朽化のため移転・新築されました。豊富な蔵書を誇る図書室は、採光屋根で明るい光が差し込みます。子どもたちのための学習スペースや、交流の場として活用できる畳の間なども設けられています。また、この図書館を贈られるきっかけとなった、氷川町出身の株式会社電通創始者、光永星郎氏の資料展示や記録映像の放映なども行われています。

